

Ⅱ 教育目標の軸となる「3つのポリシー」

1 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 1) 自分の行動が相手に与える影響を考えることができる人
- 2) 他者に関心をもち、相手の気持ちを考えたり話を聞く力がある人
- 3) 時間やルールを守り、秩序ある行動がとれる人
- 4) 何事にも誠実な行動がとれる人
- 5) チームワークを意識して行動できる人
- 6) 探求心をもって主体的な学習ができる人

2 教育課程の基本的な考え方(カリキュラムポリシー)

看護は、その国々の時代背景や社会機構によって置かれている位置が変化する。看護への社会的要請は時代とともに変化することから、看護職を育成する教育課程もその時代のニーズにより変化する。

看護職は、人口構造やライフスタイルの変化に伴う健康ニーズの質の高まりや多様化に対応できるよう、高い専門性を備えることが求められている。さらに、柔軟な思考力と判断力をもって保健医療福祉に貢献できる人材の育成が求められている。つまり、看護基礎教育においては、科学的思考を基盤とした看護の実践力、保健医療福祉全般にわたる広い視野、高い教養を備えた豊かな人間性を育てる必要がある。

本校では、茨城県民の健康の担い手としてあらゆる場で看護が実践できる質の高い人材を育成するために、次のようなカリキュラムを編成し、実践する。

- 1) 茨城県総合計画や茨城県保健医療計画に示されている多様な保健医療福祉のニーズに対応するために、①感性、②思考力(統合力)、③実践力、④主体性(成長力)を発展させながら看護実践能力を育成するカリキュラムとし、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で編成する。何れも、主体性を育むために、アクティブラーニングを学習方法として活用する。
- 2) 基礎分野では、社会の動向に目を向け、看護の対象となる人間を理解するための基盤となる感性や思考力を育む科目、社会性を養う科目とで構成する。科目は「論理学」「情報リテラシー」「文学」「英語」「教育学」「心理学」「社会学」「人間関係論」「ホスピタリティ論」「運動生理学」「哲学」「医療と経済」「倫理学」「芸術」の14単位とする。

3) 専門基礎分野では、思考力(統合力)を強化するため、人間の身体や心のしくみと働き、健康の保持・増進や回復を促進するための治療を理解し、観察力・判断力を養う科目構成とする。また、対象の生活を取り巻く保健医療福祉システムについて理解し、状態に応じて社会資源を活用できる基礎的能力、医療と看護の現状と課題を展望できる能力を養う科目とで構成する。科目は、「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」「生化学」「病理学」「治療論」「疾病治療論Ⅰ～Ⅶ」「臨床検査」「薬理学」「微生物学」「栄養学」「公衆衛生学」「社会保障と社会福祉」「チーム医療論」「関係法規」「総合保健医療論」の24単位とする。

4) 専門分野では、看護実践力を育むため、基礎分野・専門基礎分野で得た知識・技術・態度を活用し、あらゆる健康レベルにある対象に適切な方法で援助するための基礎的知識・技術・態度及び臨床判断能力を養う科目で構成する。科目は、「基礎看護学」13単位、「地域・在宅看護論」6単位、「成人・老年看護学」計 10 単位、「小児看護学」4単位、「母性看護学」4単位、「精神看護学」4単位、「看護の統合と実践」6単位、「臨地実習」25 単位の計 72 単位とする。

5) 臨地実習では、感性、思考力、実践力を段階的に育む科目構成とする。科目は「基礎看護学実習Ⅰ～Ⅲ」「地域・在宅看護論実習Ⅰ」「成人・老年看護学実習Ⅰ(周手術期)」「成人・老年看護学実習Ⅱ・Ⅲ(回復期・慢性期・終末期)」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」「統合実習」「地域・在宅看護論実習Ⅱ」とする。

なお、段階的な学習を重視するため、茨城県立中央看護専門学校学則第 11 条第2項に示すとおり、次の科目に履修制限を設ける。

- ①「基礎看護学実習Ⅰ」の修得後に「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するものとする。
- ②「基礎看護学実習Ⅱ」の修得後に「基礎看護学実習Ⅲ」を履修するものとする。
- ③「基礎看護学実習Ⅲ」の修得後に各看護学領域別実習を履修するものとする。

3 卒業認定の方針(ディプロマポリシー)

感性

- 1)対象の生命、生活、多様な価値観を理解し、尊重することができる。
- 2)対象及び対象を取り巻く人々の心身の変化に気づくことができる。
- 3)社会の変化やニーズ、保健医療福祉の動向に関心を持つことができる。
- 4)対象の尊厳と権利擁護のための倫理的な課題に気づくことができる。

思考力(統合力)

- 1)看護の対象を身体的、精神的、社会的側面から統合的に捉えることができる。
- 2)自己の看護実践が対象に与える影響を理解することができる。
- 3)看護実践を振り返り、より良い実践を見出すことができる。

